

長畑ひろのり News vol.125



(C) 2013 Kohama Studio

2月定例議会における代表質問

前号に続き、私の行なった代表質問から報告します。

・くすのき広域連合について

【長畑質問】介護保険料の基準額が府内で4番目に高い点を考えると、広域で組んでいるメリットはあるのか。昨年5月にも会派として質問したが、その後の検討状況は。

【市長答弁】介護保険事業のより良い進め方については、3市長間で意見交換を重ね、来年度には多角的な方面からの分析を趣旨に、専門的な知識を持つ事業者等による詳細な検討を始めていくことで合意したところ。

【長畑要望】検討を始めるとのこと、やっと動き出した。事業者のことを考えれば、地域手当がそのまま、くすのき広域連合の一部のみ存続しての解体となることを願う。

・駅前図書館の設置について

【長畑質問】子どもたちの学力向上の影には、大人も学力をつけていく必要がある。以前一般質問で要望したが、駅前のどこかに場所を借りてでも通勤通学に便利な場所へ図書館を作って頂きたいが。

【教育長答弁】駅前図書館は一般的に利便性が高いとされ、親の読書量と子どもの読書量が比例するとの傾向から、児童生徒の学力向上に一定の効果が期待できると考える。しかしながら、図書館を設置するには、費用や場所の確保等、整理すべき課題も多いことから、学校図書館の整備充実に努める。

・まちづくりの考え方について

【長畑質問】まちづくりの主役は「あくまで市民皆さま一人ひとりであるはず」と市長は述べられたが、外部から本市へ移り住んでいただくことを考えれば、そこに住んでいる方だけの視点でまちづくりを進めて良いのかと疑問は残るが。

【市長答弁】まちづくりの主役は市民一人ひとりであるとの観点から、市民皆様との対話を重ね地域の实情に応じた施策の展開を図る一方、市外地域からの移住促進を趣旨にシティプロモートに基づく各取組みを行っている。今後においても地域ごとの特性等をしっかりと把握しつつ、市域全体を俯瞰した施策の構築に心がけるとともに様々な方策を用い、他市から移り住みたくなるようなまちづくりを実現していく。

2月定例議会における一般質問

今回は5点の質問を行いました。その中から報告します。

・公式LINEの道路に関する通報について

本市は、2月9日より市の管理する道路の破損や陥没などの情報提供を、市民の皆様からLINEにより受け付ける取り組みを始めました。このことは先進的で、日本全国でも初の取り組みです。また、新聞や夕方のニュース番組でも取り上げられるなど多方面から注目されており、私も高い評価をしています。しかし、公道や私道の区別がつかない市民がおられればと思い質問をしました。……………



【長畑質問】国道や府道の場合、どう対応されるのか。

【行政答弁】各道路管理者あてに情報提供を行い、判断及び対応を委ねる。しかし、放置することにより通行者に危険が伴うとの判断に至れば、各道路管理者が対応するまでの間、暫定的に立入禁止の区画や危険の標示等、応急対応にあたる。

【長畑質問】私道において緊急性が低いものについては。

【行政答弁】経過観察に努めるとし、併せて、私道のため対応できない旨をホームページに掲載する。

【長畑質問】私道において緊急性が高いものについては。

【行政答弁】放置することで通行者に危険が伴うとの判断に至れば、緊急避難的に応急措置にあたる。

【長畑要望】緊急性の低いものが経過観察しても直らない。それどころか緊急性が高いものへと変わっていく。私道の場合、市民の方がどれだけLINEを使って道路の悪い箇所を伝えても、危険が伴うまで何もしないのはいかがなものか。

質問はしなかったが、私道にもいろいろある。個人や会社が所有し連絡先がわかるものについては対応ができる。しかし、道路を所有したまま倒産した会社に至っては手出しができない。そういう道路が荒れ果て、市民からはLINEに多くの情報が寄せられてくる。そういう場合どう対応するのか。運用を始めたところで答えはないと思うが、この件については、次回の一般質問で改めて質問するかも知れない。そこも含め、しっかりとマニュアルを作成して頂くことを要望する。



毎月発行している“長畑ひろのりNews”を、約半年ごとに送っています。送付の必要な方は、送付先をFAXもしくはe-mailにてお知らせ下さい。

長畑ひろのり事務所 FAX 072-877-1280 e-mail sky@nagahata.jp

<http://nagahata.jp>



・マンション等の空き駐車場問題について

国土交通省は、2017年末に商業ビルや事業用ビルに対して駐車場の附置義務台数の緩和に乗り出した。このことは、自治体が駐車場の附置義務台数を規制しているマンション等にも当てはまるのではと考え質問をしました。……

【長畑質問】本市の共同住宅における駐車場の設置台数は。

【行政答弁】開発区域の面積が500㎡以上や建築物の高さが10mを超える共同住宅等は、本市開発指導要綱及び施行基準により一般世帯の場合は1戸当たり1台、単身者の場合は1戸当たり0.3台としている。

【長畑要望】入居されている方から駐車料金を取られているのは当然で、その収入の一部が月々の管理費に充当されている。車離れ、高齢化により駐車場の利用が減ると管理費が不足し修繕計画は大きく狂う。問題が起こるのは10年以上先かも知れないが、その時になって規制を緩和しても遅い。

駐車場の実態調査をし、そこから導き出された車の保有率、そしてその数字から将来を見据えた時、どうすれば良いのか、その辺りを庁内において徹底的に議論して頂きたい。

・各種証明書が発行できない不具合について

今年1月11日の開庁時間より30分間、市民課や田原支所、税務課で各種証明書が発行できない事象が起こった。その原因や対応について質問をしました。……

【長畑質問】原因、復旧方法、市民への対応は。

【行政答弁】原因は断定できないが、印刷を制御しているサーバと発行端末との通信不具合が考えられる。

復旧方法は、職員にて速やかな現状把握を経て委託業者あてに連絡を行い、諸準備のうえサーバ及び端末を再起動した。

証明書等をお渡しできなかった方には、個別相談により自宅までお届けする、速達で郵送する、再度来庁いただくなど、一人ひとりの状況に応じた対応を行った。

【長畑質問】今後の対応策は。

【行政答弁】1月に緊急印刷用端末を配備、3月にバックアップのプリンタサーバを構築した。

今後は、複数に及ぶ印刷ルート確保に、執務時間外におけるシステム・メンテナンスの際には終了後にシステム利用課職員の動作確認を行うなど、安定的な電算管理体制をもって市民皆様から信頼いただける行政サービスの提供を徹底してまいります。

【長畑意見】前段階で端末までチェックしていれば、原因が特定できないまでも夜のうちに再起動をしていれば30分止まることは無かった。もし半日でも止まっていれば、多くの方に迷惑をかけたでしょうし、テレビ等のメディアでは大きく取り上げられ、本市のイメージは地に落ちたと思う。対応された職員の方は大変だったと思うが、明らかになったのは危機管理についての意識が低かった、それに尽きる。

インターン生から議員へ質問

最後の1問について、先月と同様に本市ホームページへ掲載された内容に少し加筆して報告します。

・市の未来像はどのようなものでしょうか？

長畑ひろのり News vol.001 に「教育は賑再生の第一歩！」と題し、本市の未来について書きました。その中の「市で育てた子ども達が、また市に帰ってくるような長期的なまちづくり」が必要だと考えています。教育は投資です「教育のまち 四條畷市」と自信をもって言える取り組みを真剣に行っていかなければなりません。

そのためにもハード整備を、つまり学校再編を適切に行っていく必要があります。この件については進行中ですが、完成後にもう一度考える時が必ずきます。学ぶ環境を整えることが出来なければ、教育を教える側にとっても受ける側にとっても満足できる結果がでないのではと考えるのです。

長畑ひろのり News vol.095 に書いたのですが、人口予測通りですと、平成42年における西部地域の中学生の生徒数は約1,100人。これは昭和60年度の南中や西中の最多時の生徒数と同じです。つまり、西部地域に中学校は1校で良いと思うのです。そうなった上で通学距離を考えますと、当然西部地域の中心部にもってくる必要があります。そこで、本市が所有する土地を考えますと、今の四條畷小学校の位置に中学校を持つのがベストと考えます。そういう意味では、四條畷小学校を廃校にしなかった東市長の考えは素晴らしいと思います。ただ、中学校用地として利用するにはやはり狭い。そのために隣接地を買収する必要があります。

同様に西部地域の小学生の児童数は、国道163号より北側で約1,100人、南側で約700人です。となりますと、小規模校解消のためにも小学校は国道163号より北側に1校もしくは2校、南側に1校とする必要があります。また、場所が移動したとしても名称については、畷中、畷小、南小は残した方が良いでしょう。結果として、西部地域のハード整備に関してのみ言えば、私の小学校時代に逆戻りです。

そして、東部地域においては、児童生徒数の減少からも、もっと早い段階で小中一貫校にしておかなければならないと考えています。ただ、この件に関しては、所属する会派3名のうち私以外の2名が東部地域にお住まいですので、私からは触れずにおきます。

結論として、繰り返しとはなるのですが「市で育てた子ども達が、また市に帰ってくるような長期的なまちづくり」です。何世代も脈々と住んで頂けるまちづくりこそ、私の考える本市の未来像であり理想像であります。

